団体インタビュー（ちば市民活動・市民事業サポートクラブ）

１　日　　時　平成２８年３月１０日（木）１０：００～１１：００
２　場　　所　おおなみこなみ（検見川町３）
３　対象団体　ちば市民活動・市民事業サポートクラブ　２名
４　インタビューの結果
（１）ＮＰＯクラブの活動について
・　１５年前に生協が母体となって設立。企業でも行政でもないＮＰＯが市民活動をサポートする。
・　団体同士のマッチング、例えば、子育て団体が一時保育をやりたい場合には、既に事業を実施している団体を紹介するなど、人と人、情報をつなぐ役割を行っている、いわゆる中間支援団体。
・　行政ではなく、ＮＰＯがやるから地域活動団体も本音の話ができる。
（２）おおなみこなみについて
・　平成２６年９月にＷＡＭ（独立行政法人福祉医療機構）の補助金を活用し開設。
・　公民館は団体利用が基本だが、ここは個人でも気軽に立ち寄れる場所。
・　担い手、店番は、有償、無償ボランティアを活用。地域の人には講座の講師を務めてもらったりしているが、運営にも参画してもらいたい。就労支援事業所と連携し、障害者の就業訓練の場としても活用。
（３）市に期待すること
・　地域の人が気軽に集まれる場所は必要。ただ、行政が用意する場所は制約が多いので補助金の方がやりやすい。磯辺地域ルームは使い勝手が悪いと聞いている。
・　障害者施設の製品の販売やイベントの参加費徴収などのランニングコストを賄う努力も行っているが、少額でもいいので経費面での継続的な支援があると助かる。地域包括ケアの枠組みの中での支援でも構わない。
・　それぞれの取組みの特徴を理解しそれを生かす支援と事例の共有をお願いする。
（４）その他
・　社協地区部会ではボランティアが減っていて、民生委員の負担が増えている。
・　地域運営委員会は中学校区単位では難しい。検見川のような古い町、花園・瑞穂のような新しい町、戸建てと集合住宅、農家など、地区毎に特徴が大きく異なる。検見川地区でも１～５丁目まで漁業、商業、農業とそれぞれ発展の歴史が違う。
・　街歩きのイベントは人気。商店街を立寄り先に加えれば、活性化につながる。
・　よくＫＪ法による付箋を活用したワークショップが行なわれているが、参加者が楽しめたことに満足して終わってしまいがち。課題の分析や解決に向けた取組みにも参加してもらい根気強く実践していかないと意味がない。